

(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170503916		
法人名	医療法人社団鈴木内科医院		
事業所名	グループホームきよたⅡ 2階		
所在地	札幌市清田区清田4条2丁目10-27		
自己評価作成日	平成23年8月14日	評価結果市町村受理日	平成23年10月11日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170503916&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会
所在地	〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地
訪問調査日	平成23年9月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・月1回家族宛てに郵送するきよめーるは普段の様子をお伝えすることでご家族に安心感を持って頂くことが出来ているのではないかと思います。
・昨年度から実施している近所の大学の実習を受け入れ、園芸療法を取り入れています。入居者さんの反応も良く、楽しく会話をしながら実施しています。
・月1回のホーム会議内で毎月スタッフ1名が自分でテーマを決めて調べてきたことを発表する機会があり、スタッフのスキルアップの場となっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ここは私たちの家です」という理念のもとに・尊厳のあるくらし・認知症に伴う障害の緩和・家族への支援の理念を居有して実践しています		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の定例会に月1回参加したり、2カ月に1度運営推進会議への参加、避難訓練にも地域ボランティアの方に参加して頂いています		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター研修会の開催や高校へ訪問して勉強会を開き、認知症のことを知って頂く機会を作っています		
4		3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で出た意見はホーム会議で取り上げ検討しています	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者が運営推進会議で地域包括支援センターの職員と情報交換をしたり、区役所や消防署の方とも定期的に話をする機会を持つようにしています		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム会議内で定期的に普段のケアで身体拘束に当てはまるものはないかを話し合い、身体拘束のないように統一したケアに努めています		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	上記と同じくホーム会議内で虐待に当たる行為がないかも話し合っています。また外部主催の虐待防止の講習会への参加も年数名ずつ参加しています		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を学び、希望する利用者やご家族に対し、届け出機関を紹介するなど行っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前にホーム内を見学して管理者の方で説明を行い、十分理解、納得をして頂いてから契約の話を進めるように配慮しています		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議でご家族から意見を頂く機会を設けています。また会議に参加出来ない方もいるので玄関に意見BOXも設置して話し合い運営に反映できるように努めています		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回ホーム会議で各職員から意見を聞けるような雰囲気作りに努めています。また毎朝の申し送りでもすぐ話し合える内容のものは意見を出して運営に反映させるよう努力しています		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回全職員自己評価を行い、それを元に管理者と面談を実施していて昇給の機会を設けています。資格取得による資格手当も設けています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実務者研修は受験資格のある職員には順次参加をするように働きかけています。また週に1度法人内での研修会、月に1度ホーム内での勉強会を実施し、スキルアップに努めています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じ区の管理者で管理者会を設け、管理者会の中で研修会担当は年に数回職員向けや地域向けに研修会を実施しています。また年に1度グループホーム交流会を実施し、他ホームの職員、入居者様との交流の機会を設けています		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前のホームの見学や退院後そのまま入居の場合は病院側から添書を頂いたり情報収集を行っている。センター方式を記入したり、ご家族からの話を特に重要にして情報を集めています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に管理者は本人とだけでなくご家族とも話し合いの場を設けて入居に関して不安なことや要望を聴き良い関係を築けるよう取り組んでいます		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	最初は対応が変わりやすいのでケアの方針についてはこまめに話し合い、その都度柔軟な対応を心掛けています。職員間も繰り返し申し送り、統一したケアが出来るように努力しています		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	料理作りなどの家事や人生経験を聞いたり個々の入居者さまに合った暮らしを共にする時間を大事にしています		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人からご家族へ手紙を書くのをサポートしたり、希望に応じて電話を掛けたり、お届けものがあつた時はお礼の手紙や電話をしたりサポートしています。中々本人から言えないことを職員が代わりにお話したりしています		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前利用していた老人会へ参加したり、近所の方や昔からのご友人も気軽に訪問出来るようにしています		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	全員が一緒にというのは中々難しいので個々の方の性格や特性を考慮して職員が間に入りながら良好な関係を築くようサポートしています		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後もご家族から問い合わせがあった場合はお話を聞く機会を持っていますし、入院先の病院から問い合わせがあればお話出来る範囲で情報提供しています		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の訴えなどの意向を会議等で検討し、可能な限り実現に努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式でアセスメントしたり、本人、ご家族から情報を伺い、ホームでの生活が入居前に近づけるように努めています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活の記録に日ごろの様子を記述して把握に努めています。また、職員間の知りえた情報を共有するよう努めています		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族訪問時に最近の様子を伝え、ご家族が気付いた事もお聞きした上で担当職員にはモニタリングを行いケアプランに反映させています		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の生活の様子を生活の記録に記載して情報の共有をしています。変化に応じてケアプランを見直し、再度話し合いを設けています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内のデイケア、病院、居宅と連携を取りその場で助言をもらったり、協力をして頂いている。ニーズの変化に応じて柔軟に対応できるよう努めています		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	老人会への参加や避難訓練で地域ボランティアの協力要請などで活用させて頂いています。文化展示会などへ出品をさせて頂き地域への参加に努めています		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設している当院の定期往診や緊急時は24時間対応の医療体制です。また医療連携では週に1度看護師に状況を報告する機会を設けています		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、看護師の医療連携で一週間の体調の変化を報告し、適切なアドバイスを受けています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	当院より入院先の病院へは添書や紹介状を提供して連携を取ったり、職員は入院中は定期的に見舞いに伺って本人の様子を拝見したり、病院関係者に様子を聞いたりして情報交換をしています		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に伴い、ケアの方針に著しい変化がある場合は当法人の院長に参加頂き、ご家族、管理者とで十分な話し合いを行っています		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に一度はホーム内での勉強会で再確認する機会を設けている。また清田消防署で開催される研修にも参加しています		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署や地域ボランティアの協力のもと、火災の避難訓練を行っています。今年は夜間想定避難訓練を実施しています		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	敬語を基本とし、人格を尊重しての言葉遣いを心掛けています		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の活躍の場や好きな事が出来るよう心掛けています。また自己決定の困難な方も生活歴などを参考に好きだった活動に参加できるよう配慮しています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「ちょっと待ってください」という抑制する言葉は使わないように心掛けています。グループホームらしくその日その日臨機応変に考えて過ごせるように取り組んでいます		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴で清潔を保つのはもちろんですが、外出時や行事の際には女性はお化粧をしたりしています。希望に合わせてパーマやカットも実施しています		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の下ごしらえや盛り付け、食後は茶碗を拭きやお盆拭きをお願いしています。また普段の会話の中から個々の入居者さんの好きなものを聞いて料理の献立に組み込んだりの工夫をしています		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	年に1回栄養士の指導を受け、食事量・栄養バランスに気を配っています。また水分量は1日最低1000ccを目安にし、嚥下状態に合わせてキザミ食や一口大などで提供しています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	見守りで可能な方、声掛けにて行う方、仕上げ磨きが必要な方、自力では困難で口腔ウェットティッシュを用いる方それぞれに個別の対応で口腔内の清潔を保っています		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録をもとに排泄パターンの把握に努め、トイレ誘導を行い自然に排泄出来るよう心掛けています。リハビリパンツから布のパンツに戻すよう努力しています		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘がちな方には医師に下剤の相談をして調整しながら使用しています。普段は水分量の確保や乳製品の摂取、体操など活動を取り入れたり下剤に頼らないで排便が出来るよう予防に取り組んでいます		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴日を確保しており体調や本人の希望に合わせて実施しています。浴槽をまたぐのが困難な入居者さんも職員二人対応で抱えて浴槽に入るなど入浴を楽しめるよう支援しています		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調に合わせて午前・午後問わず30分程度の休息を取って頂いています。日々の様子を観察して夜間、不眠に繋がらないよう配慮して休むようにしています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書はすぐ確認できる場所にあり、服薬チェック表を使用して服薬ミスのないようシステム化しています。24時間体制で症状の変化の際は当医院の医師へ報告して指示をもらっています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に合った楽しみごとを考えて提供しています。(カラオケ、外部の歌の会への参加、老人会参加、フラワーアレンジメントなど)最近ではビール(ノンアルコール)を飲むのを楽しみにしている方もいます		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や体調に合わせて外出や散歩に出掛けています。またご家族の協力で外食や外泊、旅行に出掛けられる方もいます(お墓参り、自宅一時帰宅など)		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物の会計の際、自分で支払いの可能な方には職員が付き添い払って頂いています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に合わせて自由に電話を掛けています。届物があつた場合なども電話でお礼を言ったり、手紙を送ったりしています		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースは廊下に行事の写真を飾ったり、季節感のあるものを装飾しています。レースカーテンで光の調節をし、エアコンで冷暖房調節し、居心地良く過ごせるよう配慮しています		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ配置を変えたり、入居されるメンバーが変わったときなど話し合いをしながら模様替えをして思い思い過ごせるように取り組んでいます		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に本人の馴染みのある思い出の品などご持参して自分の好きな空間になるようお話しています。ADLに合わせて家具やベッドの配置などは本人、ご家族にご提案して相談して決めています		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	移動個所には手すりを設置し、トイレも場所が分かるような工夫をして少しでも自立で行えるよう考えて取り組んでいます		